

## 第17回 肝炎医療コーディネーター研修会議事録

日時：平成30年4月27日（金） 15:30~17:00

場所：ホルトホール大分 3階 「大会議室」

テーマ：「肝炎医療コーディネーターの役割と肝炎患者の掘り起しのための工夫」

総合司会：大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター 清家 正隆先生

話題提供(30分) 座長：大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター

清家 正隆先生

「大分大学医学部附属病院における取り組み」

演者：大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター

看護師・肝炎医療コーディネーター 藤田幸子先生

(肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会の報告 看護師・肝炎医療  
コーディネーター 江月 優子先生)

<オープニング>

(清家先生)

皆様の勤務状況を考えて、今後は早めの案内を心がけようと思います。  
肝炎の根絶を考えると、どのようにしていくかを考えております。最初に  
大学の拠点病院の肝炎コーディネーターの役割、状況を提示したいと思います。  
3月上旬に実施された肝炎医療コーディネーター研修会の問題提起をしたいと思います。

話題提供

(藤田先生)

大学病院における組織図の案内、院内の活動として病院全体として、病棟、外来、  
肝臓手帳の案内をしたいと思います。病院全体として、医療安全部と検査部と連携し、院  
内のウイルス感染者のリストを作成し、陽性者のカルテを開き、ウイルス測定が必要か否  
か、当院でフォローできているかどうか、肝臓専門医に報告、相談、主治医に連絡してい  
ます。

肝臓手帳について、最初のページを開けます。肝炎ウイルス検査の項目など医師と確認し  
ながら書いて頂きます。次のページは肝臓病の原因が書かれております。右のページで  
原因別の対処法も記載されております。検査項目についての記載もあります。患者さんに  
検査する事の意味も理解して頂きます。

病棟の活動になります。肝炎検査施行者に肝炎シールを配布しています。

生涯飲酒歴を聴取しています。サルコペニア評価しております。

外来での活動になります。服薬指導、生活習慣への介入、肝炎検査の必要性の周知、相談窓口の開設、各種セミナーの案内をしております。

事例紹介：60歳代 男性 背景：ひとり暮らし

服薬指導を実施、服薬確認のため、外来から毎日電話を行うことにしました。

治療開始後 10 日後：脱水で臨時受診

治療開始後 18 日後：動けずに救急車で来院されました。

#### 問題点と対策

・キーパーソンの不在、不規則な生活、仕事との両立が困難、病識不足、理解力不足  
飲酒、高齢者・認知症

・生活背景の把握・ライフスタイルの考慮、不安や困っていることなどを、相談できる窓口があること、禁酒、MSW との連携、ケアマネとの連携

#### 拠点病院外での活動

・肝臓学会主催、市民公開講座、肝炎シールの普及、別府地区での活動、院外・眼科との連携

・地域肝炎医療コーディネーターの活動

専門病院型：院内における非専門医の陽性患者の把握と院外のかかりつけ医との連携

検診保健師型：肝炎シールの活用と無料検査の推進

一般病院クリニック：陽性患者の把握と専門医への紹介

#### 最後

第 16 回肝炎医療コーディネーター研修会のアンケートより

良かったこと：様々な職場の話聞いて、肝炎について学ぶことが多かった。

受診をすすめる、行政の関わり方の大切さ、工夫する。

今後取り組みたいこと

拠点病院におけるコーディネーターの役割の明確化

院内肝炎掘り起しシステムの稼働をサポートする

(清家先生)

肝炎陽性者は確実に文書で説明しないといけない。なのでアラートシステムを活用します。

1 週間で陽性者 7 名程をウイルス量をチェックしている。安全管理部と検査部の協力のできるようになった。

(本田先生)

新別府、別府医療センターでは退院した後に陽性者を伝えるシステムがあり、なかなか治療に結びつかない。なので、大学病院では入院中で陽性者を見つけるように工夫している。コーディネーターから主治医に連絡してウイルス量をはかるよう促している。

(清家先生)

電子カルテからのアラートシステムはコストがかかる。

(本田先生)

肝炎コーディネーターの方が関わった方が治療に結びつきやすい。

(山下先生)

大分医療センターではきちんとした組織図はできていない。これまで、肝炎対策チームで対応していた。

(本田先生)

肝炎コーディネーターの会を大分合同新聞で紹介していただいた事で他診療科の先生にもアピールできた。

(ながおかさん 県病)

県病では組織図の流れは構築できていない。

(清家先生)

こういったコーディネーターの業務は負担になっているか？

(藤田さん)

今の所はあまり負担になっていない。

(清家先生)

ディスカッションで各施設間での事例を考えていただきたい。

大分合同新聞でのったもの（地域肝炎医療コーディネーターの活動）

肝疾患相談・支援センター関係者向け研修会の報告

(江月さん)

研修内容：平成 30 年 3 月 2~3 日

対象：看護師、相談員、MSW

テーマ：各拠点病院の活動内容の情報共有

研修スケジュール：講義「今後の肝炎総合対策」「最新の肝炎ウイルス治療」

「両立支援業務の実際」

ポスター発表「各施設の取り組みについて」

二日目：優秀演題発表、肝疾患相談支援システム紹介と実践

パネルディスカッションへの質問抽出・総合討論

研修を終えての感想と学び

各センター・各肝炎 Co の活動の現状には地域差がある。

肝炎 Co の認定方法や養成の現状

センターの構成メンバー

医師の協力は不可欠

共通した課題や悩みもある

- ・施設内で役割や活動内容が不明確  
「何をしていいかわからない、これでいいのか？」
- ・肝炎 Co のモチベーション維持、フォローアップ
- ・肝臓教室のマンネリ化、集客方法
- ・施設内での職種間連携
- ・地域の中での施設間連携
- ・行政と医療機関の連携

山口県肝疾患コーディネーター連絡協議会

地域リーダーコーディネーターがいて連携をとりあっていて、それが評価できる

(千葉県)保健師との連携をとって上手くいっているケースもある

参加した肝炎 Co と Line グループを作って、情報共有しているとのこと。

(清家先生)

配置転換でモチベーションを維持できない事もあるが、今日参加して頂いて

モチベーションを維持して頂いている人もいる

肝臓教室、一般クリニックではあまり行っていないように思える。

(山下先生)

月に1回、入院患者さんを対象として実施している。話す内容を試行錯誤して実施している。内容は「広く、浅く」をテーマとしている。外来の患者さんが来院できる時間に実施したいが業務上なかなか難しい。

(成田先生) (大河原先生) (香川先生)

肝臓教室やっていません。

(清家先生)

白杵で、出張型でうまく成功したケースもある。肝機能異常の方を集めたもの。

臼杵は保健師さんが非常に頑張ってくれている。

(江月さん)

山口のように肝炎医療コーディネーターの連携をうまくとれていたらいいと考えている。

(清家先生)

全体の討論として、各地域で核となって肝炎医療コーディネーターは上手く連携をとれていけるかディスカッションして頂けませんか？(山口県のモデルケースを参考として)  
各地域のリーダーは可能か？

### 総合討論(60分)

司会：清家 正隆先生

「全員参加の総合討論」

コメンテーター：大河原 均、成田 竜一、香川 浩一、山下 勉 本田 浩一 遠藤  
美月 各先生

(清家先生)

① 拠点病院型、②協力病院型、③一般病院クリニック型、④透析病院型、  
⑤行政・企業保健師型⑥一般検診型

⑥地域の連携、行政とのやりとりなのか、診療所とのやりとりなのかはわからなかった。  
地域の拠点病院と地域の保健師との連携では可能かもしれない。臼杵でできた事を  
大分市、別府市でできればいいと思う。

(清家先生)

別府で地域とリーダーのすみわけは可能か？

(別府)

山口県は何百人もコーディネーターいるので、マンパワーがありそう。

(清家先生)

別府医療、新別府、鶴見で連携可能か？

(大河原先生)

医師同士での連携は非常に上手くいっている。コーディネーター間での連携までうまくい  
くかわ正直わからない。他の仕事を持った上でやっているのではなかなか難しい。  
別府地区だけで肝炎医療コーディネーターの会をするのは可能かもしれない。

④ドクターと気軽に相談できる関係作りができればと思います。時間とお金は限られているので、ネットとか Line を上手くつかって窓口ができればと思います。問題点としては、サブリーダーなど色々役割を担うのは難しいのではないかと。

(藤田さん)

肝疾患相談センターとして、ネットとか Line のグループをつかってうまくやれないか。

(江月さん)

患者さんの情報を Line でやり取りするのは危険ではないかと思う。

(清家先生)

まずは、メールでやりとりしてみまじょうか。肝疾患相談センターのアドレスでお願いします。

① 大分では病院のタイプで分けて、リーダーを作るのもありではないかと思う。

② 根本的な問題として、コーディネーターの活動を病院内でどうしていいかわからない。

(清家先生)

時間外ではないので、それが参加しやすいのではないかと思う。別府地区が連携としては上手くいっている。

③ 拠点病院から肝炎コーディネーターの活動を提案して頂いて、それを一般病院型で実施し、フォローするのはいいと思う。

(清家先生)

日中の開催はありますか？

あります。

5. 協会けんぽ、保健師、肝炎の情報提供、情報共有がうまくできていない。それぞれが、情報共有できればいい。

<クロージング>

(清家先生)

大分では山口と同じような事はできない。何かあったら肝疾患相談センターにメールしてください。病院のタイプでリーダーを決めていくほうが上手くいくような気がする。

肝炎シールと肝臓手帳を積極的につかってほしい。肝臓病手帳ではない。

自分で書いてくださいといってください。肝炎撲滅への活動、2030年を目指して、根絶を目指す。院内・院外・無料検診促進を実施してほしい。

肝臓病の原因まで話して頂くと非常に良い、肝炎シールのリーフレットをつかって説明してほしい。肝炎シールはマイナスのみ記入してほしい。透析病院型でお願いしたい事は今の医療で全例治癒できるので、根絶できるチャンスがあります。肝炎撲滅クリニックを指

定したい。出張肝臓教室を積極的に実施していきたい。SVR 後の管理（重症化予防：年 2 回補助）肝炎コーディネーターが通院チェックしてほしい。次回の話題提供は健保での活動をお願いしたいです。どれくらい肝炎検査を受けているか、仕組みを知りたいです。福岡との健保との取組みとの比較等、宜しくお願いします。

今後の予定：7月5日 第18回肝炎医療 Co 研修会

7月から週末に公開講座あり：8月4日大分市（握力、血糖測定など）

7月末に世界・日本肝炎デー ビラ配布

公開講座のちらし コーディネーターの方に送りますので、患者さんに手渡ししてください。

会の開始時間について 平日の15時30分よりとのこと

懇親会を企画しますので、参加を是非お願いします。

最後にアンケートの記入をしてください。